



2022年12月30日

各位

会社名 株式会社ジーエヌアイグループ
代表者名 取締役代表執行役社長兼CEO イン・ルオ
(コード番号: 2160 東証グロース)
問合せ先 ビジネスマネジメント部 部長 中野 暁弘
インベスターリレーションズ担当
(TEL. 03-6214-3600)

2022年12月27日開示の「北京コンチネントをCatalyst Biosciencesの連結子会社とし、同社を当社の連結子会社とする取引等に関するお知らせ」に関するよくあるご質問とその回答

2022年12月27日付の表記開示につきまして、頂いたご質問の中から代表的なものに対して、その回答を以下に共有させていただきます。

本資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。

将来の業績に関する見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいています。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる可能性があるため、これら業績見通しに依拠した投資判断を行うことはお控え下さいますよう、お願いいたします。

実際の業績に影響を与える重要な要因には、当社グループの事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、世界情勢などが含まれます。

この文書は、言及されている取引に基づくいかなる法域においても、売却の申し出、申し込みまたは購入の申し出の勧誘、証券の購入または申し込みの勧誘、または投票の勧誘を意図したのではなく、構成するものでもありません。いかなる法域においても、そこで適用される法に違反して、証券の販売、発行、または譲渡を行ってはなりません。

見通しや仮定の数値は、端数処理を行っております。

用例：

当社：株式会社ジーエヌアイグループ(日本単体)

当社グループ：当社および子会社

北京コンチネント：北京コンチネント薬業有限公司

CBIO：Catalyst Biosciences, Inc.

その他の用語は、2022年12月27日開示の「[北京コンチネントをCatalyst Biosciencesの連結子会社とし、同社を当社の連結子会社とする取引等に関するお知らせ](#)」をご覧ください。

Q1：北京コンチネントはどうなるのですか？CBIOに吸収されるのですか？

A1：いいえ。北京コンチネントは当社グループの中で重要な事業会社であり、そうあり続けます。北京コンチネントは、これまで中国本土におけるF351の権利のみを保有しておりましたが、本取引後もその権利はそのまま有効です。北京コンチネントは、中国で他の創薬パイプラインと同様、F351の臨床開発を中国で継続します。また、従来通り、中国でアイスーリュイを製造・販売し続けます。当社グループは、これまで通り、北京コンチネントを連結し続けます。取引2の完了後、北京コンチネントはCBIOの子会社となり、CBIOは当社グループの子会社となります。

Q2：香港証券取引所への北京コンチネントへの上場申請はどうなるのですか？

A2：北京コンチネントの上場申請は、2022年2月28日の上場申請から6か月以上が経過したため、香港証券取引所のメインボード規則9.03(1)に従って一旦失効しておりました。北京コンチネントは、現時点で香港証券取引所への上場申請に関して、これ以上の措置を講じる予定はありません。北京コンチネントの上場申請と香港証券取引所のやり取りは良好なものであり、当社グループは、香港証券取引所、日本取引所グループ、ナスダック市場を含むすべての主要な取引所運営会社との強力な関係を維持し続けます。

Q3：なぜ、通常のライセンス契約や事業提携契約ではなく、中国以外の国のF351の権利を移転することを選んだのでしょうか？

A3：肝線維症治療薬の開発は「バイオテクノロジーの墓場」と言われております。これは多くの企業に当てはまりますが、中国において線維症治療薬の研究開発が順調に進んでいる北京コンチネントには該当しません。おかげで、多額の研究開発費用が必要となる米国での線維症治療薬研究開発においては、慎重に開発を進める事ができます。本取引において、当社グループは、F351の権利を他の上場企業（CBIO）に譲渡し、そのCBIOの株式を過半数所有することにより、F351の権利をグループ内に保持します。もしF351の権利をライセンス・アウトまたは事業提携により提供していたら、この価値ある資産の全てか多くを失うことになっていたでしょう。ナスダック市場に上場している、同分野に特化した他の医薬品会社に対する市場の反応を考えると、現時点では、本取引を通じてCBIOと緊密に協力することが、当社グループの効率的かつ迅速な研究開発能力の拡大につながると考えております。

Q4：なぜ米国で北京コンチネントのパートナーとしてCBIOを選んだのですか？

A4：当社グループは、アドバイザー企業と協力して、本取引に適した会社を見つけ出し、CBIOの経営陣と取締役会に対して本取引を提案いたしました。CBIOは、バイオテクノロジー企業にとって恐らく世界で最も著名な株式市場であるナスダック市場に上場しています。北京コンチネントがCBIOの子会社になることにより、米国における将来の臨床開発の資金を確保するために、ナスダック市場の持つ資金にアクセスすることができます。CBIOのような企業と組むことにより、GNI USAの米国での存在感が増すことにより、日本、中国、米国にまたがる当社グループのグローバル体制を、よりバランスの取れたものにするようになりました。

Q5：本取引の後、誰がCBIOを経営するのですか？

A5：CBIOの現在の経営陣であるNassim Usman博士とCFOのSeline Miller氏は、少なくとも北京コンチネントの買収が完了するまで、それぞれの役職を引き続き務めます。F351買収の完了時点から、Ying Luo博士とThomas Eastlingは、3名の既存のCBIO取締役（Augustine Lawlor、Nassim Usman博士、およびAndrea Hunt）とともに、当社グループを代表し、CBIO取締役会に参加します。

Q6：CBIOは、米国でF351臨床および製品開発をすることができますか？十分な資本がありますか？

A6：CBIOの現在のCEOおよび現在の経営陣は、米国における臨床開発に関する十分な経験を有しています。また、2023年に適切な専門家を探し、CBIOに迎える予定です。本取引の主な目的は、北京コンチネント事業のプラスのキャッシュフローと、ナスダック市場に上場しているCBIOによる将来の資金調達の利用しながら、米国市場でのF351のさらなる開発を促進することです。

Q7：なぜGNIは北京コンチネントを自社の非上場子会社のままにしておかないのですか？

A7：F351のポテンシャルを世界規模で完全に実現するためには、当社グループだけで提供できるよりもはるかに多くの資金が必要です。また、F351の次期医薬品をグローバルに事業開発・販売するためには、事業上のパートナーが必要です。CBIOを通じて、当社グループは、北京コンチネントに

おける支配権維持に十分な持分を保持しますが、CBIOの提供するプラットフォームは、GNI USAおよび当社グループが他の革新的な新薬研究を行う会社と協働するために、有利に作用すると考えます。

Q8：北京コンチネントは取引後にナスダック市場に上場されることになるのでしょうか？

A8：北京コンチネント自体がナスダック市場に上場されるわけではありません。2023年のCBIO株主総会にて取引2の承認が得られた場合、北京コンチネントはナスダック上場企業であるCBIOの完全連結子会社となります。

Q9：ナスダック市場では、この種の取引は許されているのでしょうか。

A9：はい、この種の取引は米国ではリバース・マージャー（逆さ合併*）と呼ばれ、ナスダック市場では普通に見られます。CBIO取引の場合、ナスダック市場には、F351資産購入の取引契約を締結するという会社の計画を十分に通知しておりました。リバース・マージャー（逆さ合併）は新規上場ではなく、「パイプス」（PIPEs: Public Equity Private Investment in Public Equities、投資会社が上場企業の私募増資を引き受ける資金調達方法）などの資金調達を行う訳でもありません。登録明細書や目論見書は不要ですが、この取引はCBIOにとって重要な事項であるため、CBIOから米国証券取引委員会（SEC）に様式8-Kという文書が提出されています。また、必須ではありませんが、CBIOはSECに様式S-4という文書も本取引の取引1と2双方に関して提出する予定です。様式S-4には、取引2のCBIO株主による承認、取引1で当社グループ関係者に発行された優先株のCBIO普通株への転換、およびナスダック市場の規則に従ってその他の事項の承認を求める必要な委任状が含まれます。CBIOの株主総会までの間、取引2についてSECおよびナスダック市場から問い合わせがある可能性はあります。

*：日本法においては、本取引は、厳密には合併には該当しません。

Q10：GNIの株主はこれらの取引によってどのような利益を得るのでしょうか？

A10：ナスダックは、米国企業だけでなく、世界中で高成長する製薬会社やバイオテクノロジー企業に適した市場です。当社グループの認知度をグローバル規模で高めるプラットフォームとして、素晴らしい市場といえます。また、リバース・マージャー（逆さ合併）は、北京コンチネントの成功したビジネス・モデルの価値を顕在化させる手段としての役割を果たしつつ、当社グループが、北京コンチネントが香港証券取引所に上場した場合より多くの持分を保持することを可能にしております。長期的には、本取引により、日本における当社株主の多様化および当社株価のボラティリティ軽減につながるものと期待しています。これらの取引の目的は、当社グループの下でコントロールを維持しながら、ナスダック市場に上場しているCBIOを介して、中国国外のF351のみでなく、北京コンチネントの未実現価値を効果的に顕在化することです。CBIOを通じた北京コンチネントの企業価値が将来的に増加すると、当社の企業価値も増加します。

Q11：なぜF351の中国以外の権利は35百万米ドルの価値しかないのですか？

A11：この経済価値は、科学と製薬における研究開発プロセスをよく理解した経験豊富な製薬業界幹部の間で行われたアームズ・レングスでの協議により決定された価値、すなわち、自発的な買い手（CBIO）と自発的な売り手（当社グループ）によって合意された経済価値です。現在までに、F351は、B型肝炎による肝線維症に対する中国での臨床試験において良好な結果が出ております。中国国外においては、F351は米国で概念実証段階である第Ⅱ相前に留まっており、将来の上市まで、統計的には失敗する確率がまだまだ高い状況です。しかしながら、NASH（非アルコール性脂肪肝炎）はまだ治療薬がなく、患者数が増えている疾患であり、開発に成功した薬には、非常に大きな市場機会が見込まれます。従いまして、米国でのNASH（非アルコール性脂肪肝炎）候補薬としてF351を位置づけることにより、早期の薬品資産として35百万米ドルの経済価値を与えることができました。この経済価値は、（F351の）将来に関して、両社の経営陣が見据えるチャンスを保守的に見積もった数値になっております。

Q12：F351の中国以外における権利売却では、なぜ現金ではなくC BIOの株式で受け取るのですか？

A12：C BIOは重要なビジネスパートナーであり、当社グループが、米国においてF351の臨床および事業開発を推進するための足がかりとなります。株式の交換に裏打ちされた関係は、単なる一時的な「Cash and Carry」（現金取引）収入源ではなく、長期的な関係です。また、この取引は、税金を最小限に抑え、将来の研究開発のため現金留保を最大化するために設計されました。F351の35百万米ドルという経済価値は、上市までの新薬開発プロセス全てを賄うには不十分であり、新薬資産としてナスダック市場上場企業を獲得するのに使用することにより、上市に至るまで、臨床開発の各過程で必要な資金を調達することができるようになります。

Q13：取引2がC BIOの株主によって承認されない場合、どうなるのでしょうか？

A13：F351の中国以外の権利は取引2の結果に関わらずC BIOに譲渡され、C BIOが保有することになります。当社グループは、かかる状況においてもC BIO株式の経済的価値の80%以上を保有しますが、議決権は20%未満となります。しかしながら、当社グループは引き続きC BIOの筆頭株主である可能性が高く、C BIOと密接に協力し、米国におけるF351の臨床および事業開発を進める予定です。